

私たち宮崎県人権・同和教育研究協議会（県同教）は、部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消をめざして、1975年に発足し、今年で42年目を迎えます。

この間、私たちは全国の同和教育の先進地に学びながら、気になる子どもたちへの家庭訪問を繰り返し、親や本人と顔を合わせ、思いを受け止めてきました。今回の機関誌「かいほう」は、県同教が「差別の現実深く学ぶ」ことを大切に、目の前にいる様々な問題で苦しんでいる子どもたちを見捨てない取り組みを重ねてきた報告にもなっています。一つでも多くの学びとなることを願ってお送りいたします。

#### 推薦の言葉

宮崎市教育委員会  
教育委員 松野 隆 様

「子どもに寄り添う・・・」なんと尊い言葉でしょう。私も昭和60年から県同教の会員として今日まで、県同教事務局発行の機関誌「かいほう」や全国人権教育研究協議会から毎月発行される「であい」などを通じて多くのことを学ばせていただいています。かつて同和教育研究員の経験もさせていただき、いろんな状況下にある子どもたちの精一杯生きている姿が忘れられません。

皆さん、ぜひ子どもたちの現状をより深く学びませんか。

西米良村教育委員会  
教育長 古川 信夫 様

子どもたちを取り巻く現状は、年々悪化している気がしています。また、個々の子供の育つ環境は千差万別です。

そういう中で、40数年の歴史をもつ、人権・同和教育研究協議会の一人一人の子供に寄り添う、差別の現実から深く学ぶ姿勢は、教育に携わる人間にとって欠かせない視点です。私の34年間の教師生活で、被差別の立場の方の温かさ、豊かさに支えられたこと、励まされたことが今でも自分のバックボーンになっています。

自らが学ぶ姿勢を貫くことが自身の成長、子供の成長を促します。ぜひ、会員となって人権・同和教育を基底にした実践を。

都城市立妻ヶ丘中学校  
教諭 徳地真地子 様

こんにちは。私が県同教の会員になったのは平成26年ですから、まだ2年ほどしか経っていません。ですが、この2年間で様々な視点から「人権・同和教育」について学ぶ機会を多く頂きました。涙もろい私は、講話の度に目が真っ赤です（笑）。「どんな時も子どもたちの成長を支える一人でありたい！」と考えている皆さん、同和教育だけでなく人権教育について広く学ぶ機会を得ることができる県同教に加入してみませんか？